コマツ小山工場における安全活動について

A-[1]基本活動

OSHMS指標：作業手順書の細分化および充実。 2009年11月取得

魂の入った手順書の掲示
- ・指差し呼称のポイント
- ・手工具の注意事項
- ・吊り具の注意事項　　等

-[2]補完活動

(1)4種の神器 （2010年からの継続活動）
①安全道場での体感教育による安全意識の強化
②作業手順書の作成と徹底
③実践KYTによる鑑識眼の向上および定点観測の強化 （ビデオリスクアセスメント強化）
④指差し呼称による標準作業の再徹底
(2)イエロー活動・NOハンドポケット
(3)ラジオ体操全員確実に実施運動
(4)HHK提案、SEEK活動、他

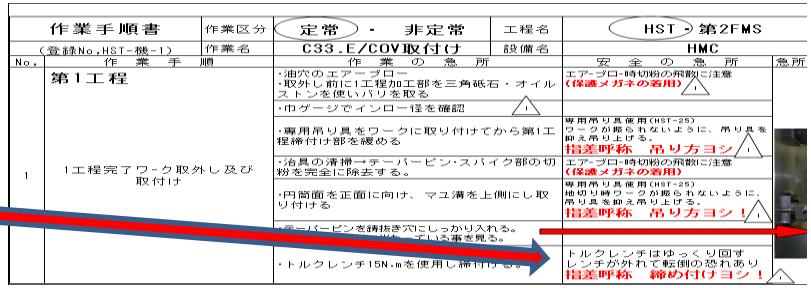
B　経験の浅い作業者への安全確保

(1)4つの活動
①実践KYTにて優先的にリスク評価を実施、標準作業の徹底を図る。
②各階層による定点観測の実施。
③安全道場にて体感教育を実施。
④KYワッペン制度 （3H活動）
3か月後定点観測によりワッペンをはずす。

A-[1]　魂の入った指導書の作成および掲示

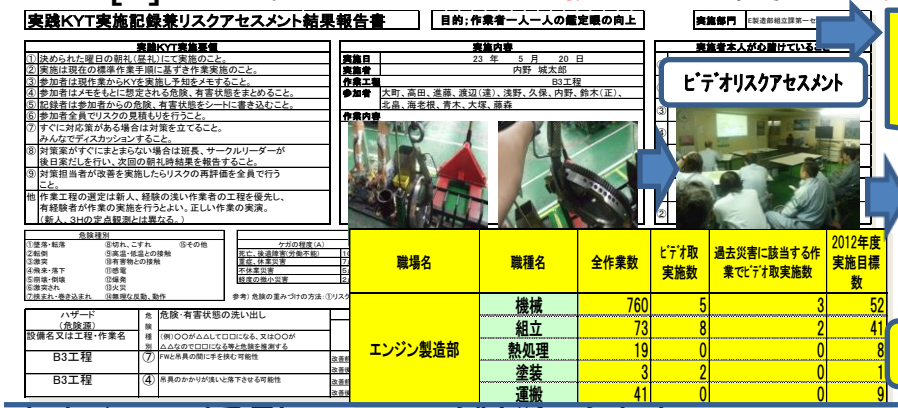
実践KYTリスク評価表
リスクアセスメント評価表

作業のポイント、
残留リスクの見える化



作業手順書	作業区分	定常 ・ 非定常	工程名	HST・第2FMS
（登録No.HST-機-1）	作業者	C33.E/COV取付け	設備名	HMC
No. 作業手順		作業の急所		安全の急所 急所
1 第1工程 1工程完了ワーク取外し及び取付け		・油穴のエアーブロー ・取外し前に1工程加工部を三角紙石・オイルストンを使いバリを取る ・巾ゲージでインロー径を確認		エアーブロー時切粉の飛散に注意 （保護メガネの着用）
		・専用吊り具をワークに取り付けてから第1工程締付け部を緩める		専用吊り具使用(HST-25) ワークが振れないように、吊り具を押え吊り上げる。 指差呼称　吊り方ヨシ
		・治具の溝押→テーパーピン・スパイク部の切粉を完全に除去する。		エアーブロー時切粉の飛散に注意 （保護メガネの着用）
		・円筒面を正面に向け、マユ溝を上側にし取り付ける		専用吊り具使用(HST-25) 地切り時ワークが振られないように、吊り具を押え吊り上げる。 指差呼称　吊り方ヨシ！
		・テーパーピンを調指き穴にしっかり入れる。		
		・トルクレンチ15N.mを使用し締付ける。		トルクレンチは ゆっくり回す レンチが外れて転倒の恐れあり 指差呼称　締め付けヨシ！

A-[2]　(1)実践KYTの継続による更なる眼力の養成



実践KYT実施記録兼リスクアセスメント結果報告書　目的：作業者一人一人の鑑定眼の向上

実施KYT実施要領

①	決められた曜日の朝礼(昼礼)にて実施のこと。
②	実施は現在の標準作業手順に基ずき作業実施のこと。
③	参加者は現作業からKYを実施し予知をメモすること。
④	参加者はメモをもとに想定される危険、有害状態をまとめること。
⑤	記録者は参加者からの危険、有害状態をシートに書き込むこと。
⑥	参加者全員でリスクの見積もりを行うこと。
⑦	すべに対応策がある場合は対策を立てること。みんなでディスカッションすること。
⑧	対策案がすぐにまとまらない場合は班長、サークルリーダーが後日案だしを行い、次回の朝礼時結果を報告すること。
⑨	対策担当者が改善を実施したらリスクの再評価を全員で行うこと。
他	作業工程の選定は新人、経験の浅い作業者の工程を優先し、有経験者が作業の実施を行うとよい。正しい作業の実演。（新人、3Hの定点観測とは異なる。）

実施内容

実施日	23 年 5 月 20 日
実施者	内野 城太郎
作業工場	B3工程
参加者	大町、高田、進藤、渡辺(達)、浅野、久保、内野、鈴木(正)、名倉、海老根、青木、大塚、藤森

作業内容

実施者本人が心掛けている事

ビデオリスクアセスメント

危険種別

①墜落・転落	⑧切れ、こすれ	⑬その他
②転倒	⑨高温・低温との接触	
③激突	⑩有害物との接触	
④飛来・落下	⑪感電	
⑤崩壊・倒壊	⑫爆発	
⑥激突され	⑬火災	
⑦挟まれ・巻き込まれ	⑭無理な反動、動作	

ケガの程度(A)

死亡、後遺障害(労働不能)	1
重傷、休業災害	7
不休業災害	5
軽度の傷の災害	2

参考）危険の重み づけの方法 ①リスク

ハザード（危険源）	危険・有害状態の洗い出し
設備名又は工程・作業名	機械（例）○○がムムして ゼロ口になる、又は○○がムムなのゼロ口になる等と危険を推測する
B3工程	⑦ FWと吊具の間に手を挟む可能性
B3工程	④ 吊具のかかりが浅いと落下させる可能性

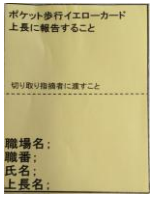
職場名	職種名	全作業数	ビデオ取実施数	過去災害に該当する作業でビデオ取実施数	2012年度実施目標数
エンジン製造部	機械	760	5	3	52
	組立	73	8	2	41
	熱処理	19	0	0	8
	塗装	3	2	0	1
	運搬	41	0	0	9

2011年実践KYT実施工程1268作業

ビデオリスクアセスメントの充実

更なる眼力の育成

(2)イエロー活動・NOハンドポケット(3)ラジオ体操全員確実に実施運動



安全担当、推進委員、組合役員が常時携帯し違反者に対してイエローカードを発行する。

健康KYの一環として、管理職が先頭に立って朝のラジオ体操を率先、全員参加にて実施し、健康促進、ケガの防止をはかる。

B　KYワッペン制度

3H(変化、初めて、久しぶり)の災害防止

①対象者へKYワッペン着用による識別。

②一定期間後の定点観測(5サイクル)による安全作業の確認及びワッペンの外し。